

列伝JAPAN TOURから各年の代表バンドが登場！ニューカマーアーティストも！

スペースシャワー列伝15周年記念公演 特別編“大大大宴会”～東の宴～

NICO Touches the Walls / the telephones / グッドモーニングアメリカ / THE ORAL CIGARETTES  
Halo at 四畳半 / Bentham / PELICAN FANCLUB / LILI LIMIT

株式会社スペースシャワーネットワーク(本社:東京都港区、代表取締役社長:清水英明)が運営する日本最大の音楽専門チャンネル スペースシャワーTVは、  
「スペースシャワー列伝15周年記念公演 特別編“大大大宴会”～東の宴～」を開催いたしました。

2001年4月にスタートしたスペースシャワー列伝が15周年を記念して“大大大宴会”を開催！  
メインアクトには、過去8回開催された伝説的ライブツアー 列伝JAPAN TOURから各年の代表バンドが登場！  
ニューカマーアーティストも交え、8組が熱演！列伝史上、最大の宴で新たな伝説の誕生！

NICO Touches the Walls / the telephones / グッドモーニングアメリカ / THE ORAL CIGARETTES  
Halo at 四畳半 / Bentham / PELICAN FANCLUB / LILI LIMIT

つきましてはライブレポート、セットリスト、およびライブ写真素材をお送りいたしますので、是非貴媒体で取上げていただけたら幸いです。ご検討の程、何卒宜しくお願い致します。

Photo by Takahiro Kugino / Yuji Honda



NICO Touches the Walls



the telephones



グッドモーニングアメリカ



THE ORAL CIGARETTES



Halo at 四畳半



Bentham



PELICAN FANCLUB



LILI LIMIT

#### ＜イベント開催概要＞

スペースシャワー列伝15周年記念公演 特別編“大大大宴会”～東の宴～

2015/9/22(火・祝) 東京・新木場STUDIO COAST

【メインアクト出演(列伝TOUR出身バンド)】

NICO Touches the Walls / the telephones / グッドモーニングアメリカ / THE ORAL CIGARETTES

【ニューカマーアクト出演】Halo at 四畳半 / Bentham / PELICAN FANCLUB / LILI LIMIT

スペースシャワー列伝15周年記念公演 特別編“大大大宴会”～西の宴～

2015/10/3(土) 大阪・なんばHatch

【メインアクト出演(列伝TOUR出身バンド)】THE BAWDIES / plenty / クリープハイブ / SHISHAMO

【ニューカマーアクト出演】Age Factory / プブブランド / 夜の本気ダンス

【WebサイトURL】[sstv.jp/retsuden](http://sstv.jp/retsuden) 【Twitter】@retsuden\_sstv

【主催・企画】スペースシャワーTV 【制作】スペースシャワーTV / Livemasters Inc.

【運営】ディスクガレージ / 清水音楽

ライブ&ドキュメンタリーをスペースシャワーTVにてオンエア！

スペースシャワー列伝15周年記念公演 特別編“大大大宴会”～東の宴/西の宴～

【初回放送】11月27日(金) 23:00～24:30 【リピート放送】12月予定

◆オフィシャルライブレポート

いまや若手バンドの登竜門として、多くの人気バンドを輩出してきた「スペースシャワー列伝」。その15周年を記念したスペシャルライブ「スペースシャワー列伝15周年記念公演 “大大大宴会” ～東の宴～」が新木場STUDIO COASTで開催された。

出演は、2009年の列伝ツアーに参加したthe telephonesをはじめ、2007年のNICO Touches the Walls、2013年のグッドモーニングアメリカ、そして今年2015年のTHE ORAL CIGARETTESと、まさにスペシャが早くから注目し、いまや人気バンドとなった4組。さらに、Halo at 四畳半、Bentham、PELICAN FANCLUB、LILI LIMITという、今後のロックシーンを担うであろうニューカマー4組を迎えて、それらがメインステージとサブステージに交互に出演するという構成で、およそ6時間にもおよぶライブが繰り広げられた。

トップバッターはサブステージに出演のHalo at 四畳半。渡井翔汰(Vo・G)が放つ歌の世界観を大切に、千葉出身の4人組バンドだ。まずは代表曲「リバーズ・デイ」から、そのストレートで力強いギターロックが、瑞々しくイベントの開始を告げる。ステージ後ろに掲げられたフラッグを指し、「“列伝”の文字を背負ってライブができることが嬉しい」と、喜びを伝えた渡井。まるで物語のような独特の詞世界の「シャロン」では、ステージにいっぱい降り注ぐ照明の浴びて、エモーショナルな演奏を届けてくれた。

そんな「Halo at 四畳半で泣きかけた……」(山中拓也(Vo・G))とノットを受け取ったTHE ORAL CIGARETTES。1曲目の「mist...」で、いきなりフロアに信じられないほどのうねりを起こすと、「この列伝に思い入れがありすぎて、お前らに最高のプレゼントを持ってきた。新曲!」と、11月11日リリースのシングル「狂乱 Hey Kids!!」を投下した。一瞬にして身体を躍り出すグループと、キャッチーなメロディ、艶やかなボーカルと、凶暴なロックサウンドが混然一体となって、完膚なきまでに聴き手を魅了していく。この日のライブを最後に、山中の声帯ポリープの手術のため一時活動休止となるオーラルだが、「THE ORAL CIGARETTESを一生守ろうと思ってる。また歌わせてください!」(山中)と、強く再会の約束を交わしてステージを後にした。

グッドモーニングアメリカは、転換中のリハで「サイダーでも飲んで」(8月発売のシングル「ハローハローハロー」のカップリング曲)を聴かせて、フロアの期待感をいっそう煽ったところで登場。パンツードに法被姿のたなしん(B)が、どじょうすくいをしながらか、お客さんの頭上へとダイブするという展開にフロアは大盛り上がりだ。恒例の「3、2、1、ファイヤー!」という、お約束のかけ声を合図に、1曲目「空ばかり見ている」が始まると、盛大なシンガロングを巻き込みながら、グッドモラしいセンチメンタルが会場へと沁み渡っていく。「未来へのスパイラル」ハローハローハロー」と、ギターチューンを連発しながら、実は、グッドモ今年結成15周年を迎えることを明かした金廣真悟(Vo・G)。いよいよ11月に迫った初の日本武道館単独ワンマンに向けて、「僕たちの挑戦をぜひ見に来てください」と力強く語りかけていた。

2007年の列伝ツアーから8年を経て、当時22歳だったメンバーも30歳を迎えたNICO Touches the Walls。全員が白シャツにジーパンというシンプルなスタイルで登場した4人は、「まっすぐなうた」から、貫禄のロックンロールでフロアを熱くした。ポップなメロディにオーディエンスが一体となってクラブを刻む「手をたたけ」では、古村大介(G)、坂倉心悟(B)が太鼓を打ち鳴らし、光村龍哉(Vo・G)がアコースティックギターを弾き歌うというダイナミックなライブアレンジで披露。「いまのNICOが最強だと思う。誰にも負ける気がしないぜ!」と、光村が言い放つMCも力強い。「ニワカ雨ニモ負ケズ」や新曲「渦と渦」など、泥臭いグルーブと、抜群のギターリフとで、これぞロックバンドと思わせるかっこいいステージを見せながら、最後に「ロックを信じていれば絶対に負けないから!」と光村。どこまでも男らしいステージだった。

メインステージで、「先輩バンド」たちが続々と素晴らしいパフォーマンスを繰り広げるなか、サブステージでも、オリジナリティ溢れるニューカマーのライブが白熱する。あのKEYTALKを輩出したKOGA Recordsに所属する期待の4人組Benthamは、小関竜矢(Vo・G)のクリアなハイトーンボイスが伸びやかに響いた「TONIGHT」からスタート。「HEY!!」「アナログマン」など、楽器隊の全員が主役級の個性を持つ、ハイクオリティなダンスロックにフロアは踊らせる。「みんな、コール&レスポンスとか慣れているから、難しいやつやるよ!」と、イベント名を使ったユニークなコール&レスポンスによる盛りも、彼らの得意とするところ。全国のライブハウスで修行を重ね、めきめきと実力をつけている4人は、今後フェスの人気者の座を狙っていくだろう。

異色の存在感を放ったのは、ニューウェーブとドリームポップの影響を公言して、自らを“ドリームウェーブバンド”と標榜する4人組、PELICAN FANCLUBだった。8月5日にリリースしたばかりのアルバム『PELICAN FANCLUB』のナンバーを3曲立て続けに披露して、美しさや狂気、不穏と激情、浮遊感が入り混じった、どこか刹那的なポップスミュージックを聴かせていく。MCでは「(列伝は)人間だったら中学3年生ぐらい。そんな思春期の列伝に何か刺激を与えられたらいいと思う」と言ったエンドウアンリ(Vo・G)。その言葉のとおり、彼らの独創的な行まいはシーンに一石を投じる存在になりそうだ。

サブステージのトリを飾ったLILI LIMIT。まず目を惹いたのが全員が真っ白の衣装に身を包んだ特異な出立ちだった。「h.e.w」を皮切りに、洋邦ポップ/ロック史の土壌から、自分たちが良いと思うものを貪欲に吸収して作り上げるLILI LIMITのポップスがフロアを心地好く包み込んでいく。「新曲を持ってきました。たぶん歌えるので、歌ってください」と、未発表曲「festa」でも、有無を言わずにフロアを巻き込んでいく強気な雰囲気も持つ牧野純平(Vo)。まさにロックシーンの未来を託したくなるニューカマーだった。

メインステージに戻り、イベントの大トリを飾ったのは、すでに年内の活動休止を宣言しているthe telephones。「この15年でいちばん最高の夜にしようぜ!」と、石毛輝(Vo・G・Syn)がお馴染みの超ハイトーンで告げ、「I Hate DISCO00000!!!」が始まると、あっと言う間にフロアには、あちこちにサークルモッシュの渦ができていった。「Say DISCO」から「AAUU000」「Monkey Discoooooooooo」と、強靱なバンドサウンドで巻き起こすディスコ旋風に、完全にダンスフロアと化した会場。ラストの「Odoru～朝が来て～」で歌い上げたこの場所だけが生まれない奇跡だ」というフレーズは、まさにこの場所、この瞬間にピッタリだった。アンコールでは、「音楽は売れない時代だけど、こういうイベントは大事だと思う。このカルチャーを守っていこう」と、熱く語りかけた石毛。ラストナンバー「Love&DISCO」では、巨大なミラーボールが眩い光を放つなか、最後まで踊らせまくったテレフォンのステージは、「We Are the telephones!!!」という力強い叫びと共に幕を閉じた。

この日のライブの様子は11月27日(金) 23:00～24:30にスペースシャワーTVで放送される予定。ライブに参加した人も、そうでない人もぜひチェックしよう。

Text by 秦理絵

◆SET LIST

Halo at 四畳半  
リバーズ・デイ  
幕星について  
アメイジア  
シャロン  
THE ORAL CIGARETTES  
mist ...  
STARGET  
狂乱 Hey Kids!!  
カンタンナコト  
Mr.ファントム  
起死回生STORY  
エイミー

Bentham  
TONIGHT  
HEY!!  
アナログマン  
手の鳴る方へ  
パブリック  
グッドモーニングアメリカ  
空ばかり見ている  
キャッチアンドリリース  
コピペ  
未来へのスパイラル  
ハローハローハロー  
イチ、ニツ、サンでジャンプ

PELICAN FANCLUB  
Chilico  
プラモデル  
Dali  
Capsule Hotel  
1992  
NICO Touches the Walls  
まっすぐなうた  
手をたたけ(ACO)  
THE BUNGY  
ニワカ雨ニモ負ケズ  
渦と渦  
天地ガエシ

LILI LIMIT  
hew  
Girls like Chagall  
festa  
at good mountain  
the telephones  
I Hate DISCO00000!!!  
DaDaDa  
Say DISCO  
A A U U O O O  
Monkey Discoooooooooo  
Odoru～朝が来て～  
Love&DISCO

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社スペースシャワーネットワーク マーケティング部  
TEL:03-3585-3544 FAX:03-3585-3215 http://www.spaceshowertv.com/  
担当:宮田 維人 080-6860-3800 miyata@spaceshower.net